

掲載論文の紹介

秋田県立大学ウェブジャーナル編集委員会

【地域と連携したひとづくり（教育）】

■秋田県におけるプログラミング教育に対する支援体制の構築：『秋田県子どもプログラミング教育研究会』の活動内容（廣田千明ほか）

本誌第4号において、筆者をはじめとする教員、さらには学生らによる「子供向けのプログラミング教室」の開設における取り組みが報告された。そこに記載されているように、当初は大学を主体とした限定的な取り組みであったが、現在、筆者らは秋田県全域で子どものプログラミング教育を発展させるための支援体制づくりへと活動を発展させている。その支援体制の中核となる研究会の設立、連携体制づくり、子供のみならず指導者への講習など、これらの取り組みが各地域におけるプログラミング教育環境の整備に寄与し、2020年度からの小学校におけるプログラミング教育必修化が適切にスタートできることを期待したい。

■哲学を通じた地域貢献活動の教育的意義について：秋田哲学塾の事例から（鈴木祐丞）

総合科学教育研究センターによって平成28年度から4回にわたって実施されている「秋田哲学塾」「哲学カフェ」の活動報告。この間の活動内容を紹介し、哲学を通じた地域貢献活動の意義を伝えている。

■秋田県立大学における「あきた地域学アドバンス」の実践：COC+事業に基づく地域に根ざした大学を目指して（荒樋豊ほか）

秋田県立大学では、2015年度から、COC認定を受けて、「知の拠点（COC+事業）」に取り組んでいる。本論文はその一環として2018年度に開講された「あきた地域学アドバンス」の記録である。ワークショップ、現地実習、成果のポスター制作、報告会の開催と集中的に行われたプログラムの結果、受講生の地域づくりに対する関心や意欲が高まったことが

報告されている。

■知能メカトロニクス学科1期生の新入生オリエンテーション宿泊研修を実施して（間所洋和ほか）

知能メカトロニクス学科では、新入生オリエンテーションとして、本学における農工連携の将来的な展開も見据えて、大潟キャンパスがある大潟村で宿泊研修を行った。本学科は、システム科学技術学部の再編により新たに誕生した学科である。本論文では、学科として初のオリエンテーションの計画段階から実施、反省までを記録し、さらに学生へのアンケートも含めた考察を行っている。

【地域と連携したまち・むらづくり（地域づくり）】

■福祉施設における園芸活動を持続的活動とするための実践事例（神田啓臣ほか）

本論文では、2003年から大潟村の特別養護老人ホームとケアハウスで行っている、施設利用者を対象とした園芸活動を持続的なものとするための取り組みを紹介している。より良い園芸療法や園芸福祉を実践するため、成果や課題を分析しながら長きにわたってスタッフ体制を構築し、活動プログラムを考案してきており、ここで示されている具体例は他施設における園芸活動の参考となることが期待される。

【退職教員の寄稿】

■水田農業地帯における園芸振興：園芸メガ団地育成事業の取り組み（藤井吉隆ほか）

本論文では、園芸メガ団地育成事業における課題を、「大規模化に対応した営農体制の構築」と「園芸品目の技術習得」に着目して検討した。その結果、「営農主体による自主的な勉強会の開催」と「園芸メガ団地内の生産者の相互交流・研鑽」を促す取り組みを行うことが有効であることを示した。また、運営体制の異なる8地区を対象に課題解決に取り組んだ労作と考えられる。以上より、本論文は、秋田

県に代表される，水田農業地帯における園芸振興に
寄与するものと期待される。